

「人はなぜ誤るのか - ヒューマンエラーの光と影 - 」: 海保 博之著、福村出版、ISBN  
4-571-21032-9 (定価 1800 円 + 税)、1999 年 2 月



## 目次

### はじめに

- 1 部 誤りながらいきいき生きる
  - 1 章 誤りは健全か
  - 2 章 誤りから人を見る
  - 3 章 いきいき誤る
  - 4 章 「正解」を考え直す
- 2 部 ヒューマンエラーに強くなる
  - 5 章 思い込みエラーを克服する
  - 6 章 うっかりミスを事故につなげない
  - 7 章 自己モニタリング力をつける

認知心理学（筑波大学）の第一人者である筆者が「人間は誤るものなり」として、それを出発点に人間の判断や行動をとらえ直し、誤りにも、何かもっと積極的な意味合いがあるのではないかという疑問について焦点が当てられている。1部の「誤りながらいきいき生きる」では、誤りながら生活することの積極的な意義を身近な事例で検証し、誤りの生かし方についてプラス的な要素が存在していることを示唆している。2部の「ヒューマンエラーに強くなる」では、1部の誤り（ヒューマンエラー）の光の（創造的効果）部分に対応した影の（破壊的）部分として、「思い込みエラー」と「うっかりミス」に関する認知工学的な説明を行い、ヒューマンエラーを防ぐ視点として自分で自分をモニターする「自己モニタリング力」の重要性を説いている。